

「ハートにコストはかからない」 地域密着の活動で、全国に 心のバリアフリーの輪を広げる

5年連続で東京都スポーツ推進モデル企業に選ばれ、「殿堂入り」となったあいおいニッセイ同和損害保険株式会社。15名のパラアスリートを含む計22名(2020年8月現在)の所属アスリートをスポーツ体験や講演会の講師として派遣し、地域に貢献。また、パラスポーツ支援を長く続けるために、コストを抑える工夫も行っている。



あいおいニッセイ同和 損害保険株式会社

あいおいニッセイ同和損保
MS&AD INSURANCE GROUP



観戦会



体験会・講習会



ボランティア



協賛



アスリート雇用



施設貸出

企業情報

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

【担当部署】経営企画部

【所属人数】4名

【住所】東京都渋谷区恵比寿1丁目28番1号

【電話】03-5789-6308(直通)

【URL】<https://www.challenge-support.com/>



選手の活動状況に応じ、全国の職場に配属されている。このような取組を知り、北海道小樽市のスポーツをしている障害を持った中学生が修学旅行で同社を訪問し、視覚障害者柔道の石橋元気選手と交流を深めた。



小樽市の中学生と同社パラアスリートとの交流の様子

自治体と企業をつなげ、支援の輪を広げる

同社は、「地域密着」を行動指針の一つとしており、全国の地方自治体とともにさまざまな活動を展開してきた。障がい者スポーツ支援を通じた共生社会の実現を目指した活動にも力を入れ、東京都ワイドコラボ協定も締結している。例えば、渋谷区とは、2017年にS-SAP(シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー)協定を締結。「渋谷区でご活用いただくため、ポッチャ用具を寄贈しました。さらに、パラスポーツ支援の輪も広げたいと考え、当社の食堂スペースを利用してポッチャの体験会を行い、長谷部健区長はじめ渋谷区関連部署の皆さま、S-SAP協定締結企業や、ユニバーサルマナー研修などを手がける企業にも参加いただきました。皆さん楽しんでくださいましたし、何より和気あいあいとした雰囲気の中、渋谷区や企業同士が交流できて良かったと思います。」と倉田次長は振り返る。地方公共団体と連携した活動は、全国で年間80回を数えるほどに成長した。

コストをかけないから、続けられる

同社では、一貫して大切にしていることがある。それは「コストをかけないこと」である。「少しでも長く続けるには、できるだけコストを抑えなが

らコツコツと活動することが必要です。スポーツにはともすれば莫大な予算を投じがちですが、それでは万が一の際、真っ先に予算を切られてしまう恐れがある。それを避けるためでもありますし、SDGsの目標にある持続可能性の追求にも関連します。」(倉田次長)



同社所属パラアスリートを社員で応援

「パラスポーツ支援をしたいと思っても、経営の上層部の説得に苦勞するケースがあると耳にする機会がありますが、基本的には、障がい者支援やパラスポーツの機運醸成にNOという経営者はいないのではないのでしょうか。もし、難色を示される場合は、負担増を気にされている可能性があります。でも、ハードはコストがかかりますが、ハートにコストはかかりません。」(倉田次長) そうはいつても、やはり自社で取り組むにはハードルが高いという企業・団体には、まずTEAM BEYONDに参加してはと、倉田次長は提案する。「TEAM BEYONDのワークショップや大会観戦に参加すると、人脈や情報、そして気づきが得られます。参加したら自社に持ち帰って何かをしなくては、などと難しく考える必要もないと思います。TEAM BEYONDに参加するだけで立派なパラスポーツ支援活動になるのですから。」(倉田次長)

コロナ禍における取組・今後の方向性

コロナ禍でも今できうる取組を継続している。今年度3名のアスリートを採用、職場社員が総出で感染対策を行い、手づくり入社式を行った。緊急事態宣言下の5月1日より2ヶ月間、社内報webサイトや公式facebookにて所属アスリートによる「応援バトンリレー」投稿を展開した。テレワークと練習の工夫を通じて「自分たちにできることは何か」を考える意識が高まった。今後もスポーツの明るい取組が社員の元気を引き出す一助になればと考えている。

社員が応援したくなるアスリートを雇用



同社のアスリートと社員の皆さん
(アジア大会・アジアパラ大会社行会にて)

「パラスポーツ支援を通じて、障がいのある方の自立支援を」との考えのもと、2014年よりパラスポーツ支援を開始した同社。まずはパラスポーツ観戦からと、初年度はジャパンパラ競技大会の全競技を観戦、現在では年間約20大会に拡大されている。海外では、2019年より同社の現地法人による応援活動も開始した。また、都道府県主催の障がい者スポーツ大会での運営ボランティア活動も各地域で行っている。

「パラスポーツって、観るとどれも迫力があって面白い。でも当社の社員たちがもっと、心から応援するためには、思い入れを持って応援できる対象が必要なのだと気づきました。そこで、自然と応援したくなるアスリートを雇用しようと思い立ちました。アスリート雇用はスポーツ支援そのものだと思います。」と、経営企画部スポーツチームの倉田秀道次長は語る。



倉田次長

「制度設計をするにあたり、採用方針を二つ決めました。一つは、競技引退後も継続して雇用すること。そしてもう一つは、競技の種類やレベルにこだわらず、人物重視の採用をすることです。」(倉田次長)
2020年8月現在、15名のパラ選手が在籍しており、各